

# 県 外 派 遣 報 告 書

<b>大会名</b>	平成24年度 全国ミニバスケットボール審判長講習会	<b>開催地</b>	東京(文京総合体育館)
<b>報告者名</b> (所属連盟)	玉木 真 (ミニ連)	<b>派遣期間</b>	平成24年7月14日 ~ 15日
<b>参加者</b> (所属都県)	講師 公益財団法人日本バスケットボール協会 AA級公認審判員 東 祐二氏 講師 公益財団法人日本バスケットボール協会 AA級公認審判員 平原勇次氏  参加者 ブロック審判長 各都道府県ミニバスケットボール連盟審判長(又は、同等する代理人)		
<b>【講習会内容】</b>			
<b>(1)実技講習会</b>			
講師の方から	審判2人が協力してプレイを捉えていくことを重点に考え、1対1の分析練習を行う。  1対1のオフェンスプレイヤーのドライブに対して、オートマチックにスペースを捉えにいこうと動きが見受けられる。見に行こうとする動きや気持ちは大切だが、見に行っただがために、ブラインドになっているケースはないか、確認をする必要がある。例えば、1対1のプレイからオフェンスプレイヤーのドライブが始まる。そのドライブに対して2番のディフェンスプレイヤーがヘルプに入る場面をプレイが始まる前にそれぞれのプレイヤーがどの位置をしめているのか、もっと確認してほしい。プレイの始まりはどちらの審判が確認するのか、二人の審判が同じ所を見ているように感じる。プレイの始まりをはっきりさせることをもっと意識してほしい。  地元へ帰った時に、審判長としてゲームを成立させるために、すべてのプレイをみる習慣がついているのではないかと、もう一度、その点を確認していただきたい。審判は二人の協力で行われている。		
<b>(2)座学講習会</b>			
	北信越・四国ブロックの1名選出によるパネルディスカッション テーマ「審判講習会で何を伝えてきたか」		
	北信越(福井県)	審判員の数が少ないので、審判員の数を増やすために、ミニ公認審判員制度をつくり審判員の数を増やした。そこから、審判技術・意識の向上を目指しているところである。しかし、そこがうまく軌道にのれていない。審判している人はほとんどが指導者である。指導が1番で、審判は2番という意識が強い。ルールを理解やプレイの分析または審判技術の向上が指導にも繋がることもっと伝えていきたい。	
	四国(香川県)	日本公認審判員は現在10名である。選手・指導者は年々レベルアップしている。しかし、審判はしていない。そこで講習会では、審判員としての心構えやマニュアルの確認のなど、初心に帰って講習会を行うようにしている。また、審判していてつらい思いや嫌な思いをしている審判員が多い。審判員も一つのチームとして多くの悩みやつらさを全員で共有して、乗り越えていけるようにしたい。	
<b>【感想】</b>			
<b>(1)実技講習会</b>			
	ゲームを使っただの具体的な分析練習であったので、非常にわかりやすかった。自分自身もプレイに対してオートマチックに動いている場面があると自覚した。プレイの始まりの分析、二人の審判員の協力、プレイの終わりの見届け方をもっとレベルアップしないといけないと思った。		
<b>(2)座学講習会</b>			
	各都道府県の審判の状況を聞いて良かった。どの都道府県も審判員の数が足りていないように思う。また、審判員を増やすことができても、ルールを理解やプレイの分析または審判技術の向上がうまくできていないところが多い。滋賀県(ミニ連)も審判員の数は増えた。しかし、審判技術の向上はうまくいっていないように思う。審判長として何をすべきなのか、何を伝えていくべきなのか、考え実践していきたい思います。		